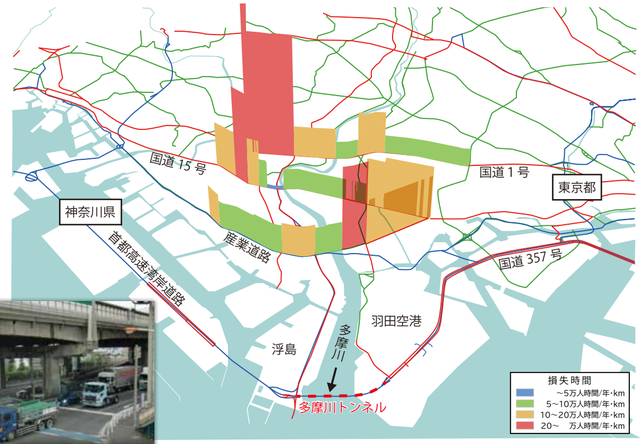
多摩川トンネルに並行する主要幹線道路の損失時間 ※1 は、約 258 万人時間 / 年

多摩川トンネルに並行し、多摩川を渡る産業道路、国道１５号、国道１号は、自動車が集中しており、著しい渋滞が発生しています。
多摩川トンネルの整備により、内陸の並行する主要幹線道路の交通渋滞の緩和が期待されます。
※1：自動車の乗員が渋滞により失われた時間の合計



産業道路の渋滞状況

ETC2.0プローブデータ（R1.10）より算出

臨海部でのミッシングリンクが解消され、浮島～羽田間の所要時間が約16分短縮します。

浮島と羽田空港間を一般道で往来するためには、約５㎞上流（内陸側）の産業道路、さらに上流の国道15号や国道1号を経由する必要があります。
しかし、この３路線の断面交通量は１０万台/日を超えており、混雑度※2も1.14と飽和状態です。
多摩川トンネルの整備により、浮島～羽田間の所要時間は、産業道路を経由する場合の約26分から約10分に大幅に短縮されます。

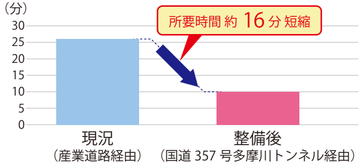
※2：交通容量（円滑に通行できる交通量）を1.0とした場合の実交通量の割合

並行する一般道路の交通量

	24H 交通量（台）	12H 交通量（台）	混雑度
国道 1 号	40,923	28,651	0.92
国道 15 号	33,839	22,001	1.51
産業道路	27,496	19,640	1.25
3 路線計	102,258	70,292	1.14

出典：平成 27 年度 全国道路・街路交通情勢調査　一般交通量調査

多摩川トンネル整備による所要時間の短縮（浮島～羽田）



現　況：ETC2.0 プローブデータ（R1.10）より算出
整備後：国道 357 号専用部（3 種部）規制速度 60km/h より算出

多摩川トンネルが完成すると
東京湾岸道路はどう変わる？

交通の円滑化

自動車専用部の整備により、移動距離に応じて道路（首都高速・国道 357 号（自動車専用部・一般部））を選択することが可能となることから、交通量が分散し交通の円滑化が図られるとともに、安全な走行環境の確保が期待されます。

生産性の向上

東京湾岸道路の整備により、我が国の経済を支える京浜港や千葉港のほか、日本のゲートウェイである羽田空港へのアクセス機能が強化されるとともに、人流・物流が効率化し、生産性の向上が期待されます。

交通混雑の緩和

東京湾岸道路の整備により、内陸部（産業道路・国道 15 号・国道 1 号）の道路に集中している交通が臨海部に転換され、周辺道路の交通混雑の緩和に繋がることが期待されます。

防災機能の強化

首都直下地震等の大規模災害が発生した際の応急復旧活動の拠点となる「基幹的広域防災拠点（有明・東扇島）」があり、発生時のスムーズな救助活動、復旧活動、救援物資の輸送に寄与することが期待されます。

お問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局
川崎国道事務所

〒213-8577　神奈川県川崎市高津区梶ヶ谷2-3-3
TEL：044-888-6411

川崎国道　検索
https://www.ktr.mlit.go.jp/kawakoku/
Twitter:@mlit_kawakoku

R3.7

一般国道357号

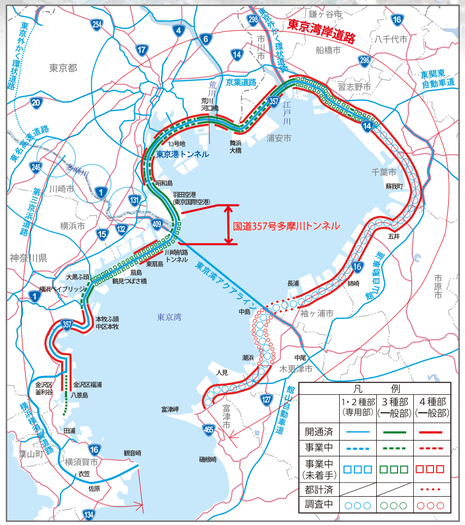
多摩川トンネル

国土交通省 川崎国道事務所

イメージ

羽田空港周辺地域および京浜臨海部へのアクセス性の向上や拠点間の連携強化を図ります。

国道357号東京湾岸道路は、千葉市美浜区から横須賀市に至る延長約80㎞の海岸沿いに伸びる主として埋め立て地を利用した道路となります。臨海部に面する各都市を結び、空港および港湾等の物流拠点やオフィス・レジャー施設へのアクセス向上等、様々な都市機能の効率的な交流と連携を図ることを目的としています。国道357号多摩川トンネルが整備されることにより、羽田空港周辺地域および京浜臨海部へのアクセス性の向上、拠点間の連携が図れるとともに、産業・物流等の効率化など、国際競争力の強化が期待されます。



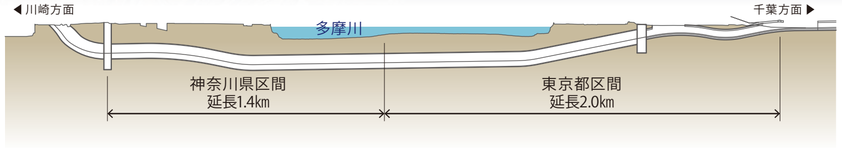
計画諸元

区　　間　自：東京都大田区羽田空港
　　至：神奈川県川崎市川崎区浮島町
計画延長　3.4km
車 線 数　2車線

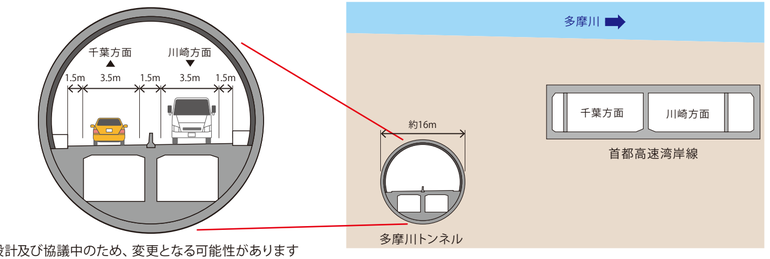
トンネル概要諸元

シールドトンネル延長 ： 約2.7km
トンネル外径 ： 約16m
最小曲線半径 ： 1,200m
最大縦断勾配 ： 4%

縦断図

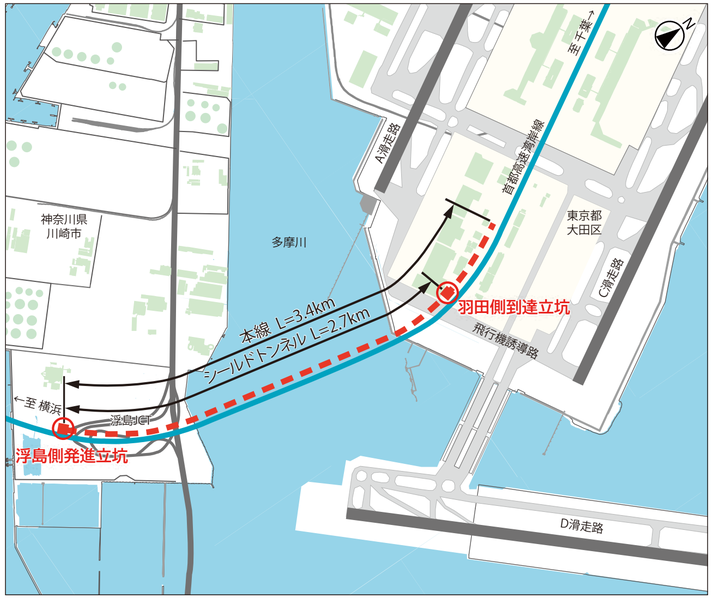


標準横断図



※設計及び協議中のため、変更となる可能性があります

多摩川トンネル全体図



浮島側発進立坑

羽田側到達立坑

空中写真出典：（C）NTT インフラネット株式会社、DigitalGlobe Inc.